

2. 事例 1: 友達の輪に入れず 2 回の転校、不登校 ～そして臨床心理士を目指して大学に～

浅井心理相談室
浅井和幸



<概要>

A子さん（当時16歳）は、周りとうまくいかず不登校になる。2回の転校後、3つ目の高校でも上手く友人がつかれず不登校。1つ目の高校は、勉強のペースが速く、周りと比べて勉強が進まず自分とは関係ないところで授業が行われていた。周りとも話がしづらくなり、落ち込むからさらに勉強が手につかないという悪循環。そのうちに学校に通えなくなった。2つ目、3つ目の高校でも同じような感じであったが、最初の学校ではスクールカウンセラーの制度はあったが実態はほとんど無く、2つ目、3つ目の高校は、スクールカウンセラーがいなかったため、十分に話を聞いてくれるところは無かった。

しかし、2つ目の高校からは、コンビニでアルバイトを始めた。校則で許されていた長期休暇の間だけと、この状態でも校則は守っていた。アルバイトでは店長や店員、お客とのコミュニケーションはとれていたが、学校でのクラスメートとはどうしても話ができない。特に、人の悪口や芸能人が付き合っている・別れたという話が苦手だったと言う。

学校に行けなくなり始めたときは、友人や先生、家族も訳が分からず、とにかく学校に行くようにだけ言ってきた。熱があるわけでもなく、怪我をしているわけでもない、特にいじめられているわけでもない、取り立てて納得の行く目に見える分かりやすい原因が無かったからだと言っている。周りに理解してもらえないし、自分でも良く分からない状態。その感覚によって、さらに孤独が増していった。

そして、だんだん元気の無くなっていくA子さんに何かできないかと家族は考え始める。祖父母は医療関係、両親は福祉関係の仕事をしている。それでも、この様な状態を、どこに相談すれば良いのか、どう対処すれば良いのかの情報を持っていなかった。インターネットで見つけた相談室を試してみるよう勧めたのは、祖母だった。

相談室に通ううちに学校を辞め（この時までアルバイトは続けていた）、予備校で「高等学校卒業程度認定試験」を取得、臨床心理士指定大学院のある大学に現役で合格し、スクールカウンセラーを目標に臨床心理士と精神保健福祉士の勉強を続けている。

<この対応はダメだった>

★学校に通う事での素晴らしい事、学校に行かない事でのハンデばかりを、一方的に説得する。

聞き入れる体制ができていない時にアドバイスを受けると、反発してしまうのが人情です。アドバイス自体は優しい言葉でも、本人を否定してしまう要素を含み、責められていると感じたり、誰も分かってくれないという孤独感を感じたりする事があります。

★スクールカウンセラーがいなかった。

制度上の問題ですが、場合によっては担任の先生や学年主任、養護の先生などで理解のある方を見つけることも大切です。このケースでは、最初の学校にスクールカウンセラーがいたのですが、機能していなかったと本人は言っています。

★行けない状態を周りが理解できなかった。「いじめ」等の理由が無かった。

特にいじめが無いし、熱があるわけでもない。それなりに周りともやっている状態で本人も訳が分からない状態。周りも学校に行けという対応しか出来ず、前に進む事ができませんでした。祖父母は医療系で両親は福祉系で働いていますが、まだまだ、不登校、ひきこもりの支援情報は少ないのです。

<こんな対応が良かった>

☆アルバイトをし、学校以外にもある世界を体験していた。

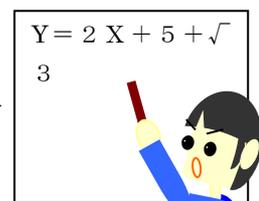
学校だけしか知らないと、その学校に行けない（居場所が無い）ということは、この世界全てに居場所が無いということになります。このケースは、学校だけでなく、別の社会で、同年代や親の世代とコミュニケーションをとり、不特定多数のお客さんにも対応していた事が、相談後、切替をしやすい下地を持っていたことになります。

☆祖父母も含め、家族がカウンセリングに対する理解があった。

医療系、福祉系での勤務により家族が相談することへの抵抗が無いだけでなく、家族が相談先を積極的に探し、本人に勧めていました。これは、相談機関に繋がり易いだけではなく、家庭がバックアップしやすい環境と言うことになります。

☆カウンセリングでは、まず関係ない話をした。

カウンセリングで、どうして学校に行けないのか？とか、本人が答えるまで沈黙を守るということも大切な事です。しかし、場合によっては、その場を和ませるような全く関係ない楽しい話をし、こちらから場を和ませる事も必要なようです。



$$Y = 2X + 5 + \sqrt{3}$$

☆予備校での勉強が、自分で考えていける仕組みであった。

もともと本人の素質として、人に与えられたものを器用にこなす事よりも、自分で状況を考えて自分に合わせて組み合わせていく方が得意だった様です。このように、本人の特性にあった勉強方を見つける事は、とても重要な事でしょう。



☆他の活動を見学したり、ボランティア活動をしたりした。

その時に出来る人数や雰囲気のものを用意してもらい、本人が活躍できる場を体験できる事は良い方向に向います。